

読者ひろば

私の一字

和

吉永ハリエ90 無職(熊本市)
なごやかな毎日を過ごせるように。

荒尾二造通じ
戦争の実相を

高谷和生63

市民団体代表

(玉名市)

荒尾市の「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所資料館」開館式典に参加した。高齢となられた元従業員

「読者ひろば」への投稿は400〜600字。「主張・提言」に採用することもあります。欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する。趣旨を変えず文章を直すこともあります。原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用です。掲載分には薄謝を送ります。

投稿される方へ

◇モノクロ作品募集 「私の一字」好きな文字一字を書き、その理由も。「モノクロギャラリー」イラスト、写真など、タイトルを付けて。はがき、封書、メールで年齢、職業も忘れずに。作品は返却しません。あて先は①郵送〒860-8506、熊本市中央区世安町1-72、熊日「読者ひろば」係②ファクス 096(3693) 1268③メール hiroba@kumamanchi.co.jp

「二造会」や本軍需工場

に学徒徴用された旧制玉中生・高瀬高女生の方々、丹念に地域を歩き戦争遺跡の調査・記録、検証を進められた市民グループ、諸氏の平和を希求する熱い思いに胸を打たれた。

平成24年の財務省競売

が端緒となった荒尾二造変電所売却問題は、県内唯一の軍直営工場であった荒尾二造の普遍的価値や歴史像を市民に提起する貴重な機会となった。地域の方々が立ち上げた市民グループによる各種講演会、大牟田市のNPOとの連携による啓発リーフレット2種の発刊、見学会やワークショップ活動は広範な保存署名運動につながり、市による変電所跡買い上げ、さらには念願だった祈念碑建

立へと結実した。

市民による手作り資料館には「全身黄色火薬にまみれた」風船爆弾の火薬を試作した」など貴重な証言に加え、入手した旧施設写真や米軍資料、解体された宿舍建物壁からの戦意高揚檄文、個人が永く保管していた工員手帳、火薬箱など歴史資料約80点が所狭しと並べられている。石炭を原料とした独自の火薬製造の姿を通して近代荒尾の土地に刻まれた記憶を継承し、戦争の実相を刻む資料が実見できる。

世界遺産となった万田坑とともに歴史を直視し平和を希求しながら、荒尾の財産「荒尾二造、記憶の遺産」を、これから市民自らが紡いでいくことを願っている。